
「海の生き物を守る会」メールマガジン No. 83

2011.7.18 (月)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今月の日本の海」 種子島 原之里海岸

鹿児島県種子島の中種子町の南西にある長浜海岸は、東シナ海に面し、長さ 12km におよぶ種子島で最大の長大な砂浜海岸である。「原之里海岸」は、そのほぼ中央に位置する。ほぼ全体が自然海岸であり、人工構造物がないため、砂浜上部には、砂丘が広がり、塩生植物帯も広がっている。白い砂浜と美しい夕陽の眺めは絶景である。ウミガメが産卵に上陸



し、地元では砂浜の保全に取り組んでいる。春にはハマゼリの山菜採りや潮干狩りが楽しめる。また、サーフィンを楽しむ若者も四季を通して多い。沖に馬毛島の姿が見える。近年は、漂着ゴミの増加が景観を損なっている。

(向井 宏撮影)

目次 「今月の日本の海」 種子島 原之里海岸

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
3. きらめく動物たちの命と海 久保田信の白浜だより (その9)
4. 事務局便り
5. 編集後記

1、海の生き物とその生息環境に関するニュース

【全国】

●環境省が COD・リン・窒素の総量削減目標を発表

環境省は、水質汚濁防止法や瀬戸内海環境保全特別措置法に基づいて定められた窒素やリンなど環境負荷物質の排出総量削減基本方針を策定しているが、このたび、公害対策会議の決定を受けて、東京湾、伊勢湾および瀬戸内海のCOD（化学的酸素要求量）、窒素、リンの総量削減目標を発表した。削減のために必要な対策として、下水道や浄化槽の整備、環境保全型農業の推進、家畜排泄物の適正管理、養殖漁場の改善、干潟・藻場の保全・再生、藻類養殖の推進、底質改善などが挙げられている。

		(2014年度の目標量)	2009年度における量
東京湾	COD	177	183
	窒素含有量	181	185
	りん含有量	12.1	12.9
伊勢湾	COD	146	158
	窒素含有量	115	118
	りん含有量	8.7	9.0
瀬戸内海	COD	472(116)	468(118)

※()内は大阪湾	窒素含有量	440(103)	433(104)
	りん含有量	27.4(6.6)	28.0(7.2)

対象水域別・項目別の削減目標量(単位:トン/日)

●水産庁が水産復興マスタープランを発表

政府の東日本大震災復興構想会議の提言により、水産庁が水産復興マスタープランを作成して取り組むことになった。ポイントとしては、漁港を拠点漁港とそうではない漁港に区別して、拠点漁港から復興事業に取り組むこと、再開可能な漁場を優先してがれき撤去を行うこと、省エネ、省コスト漁船の導入による漁船・船団の近代化・合理化をすすめること、養殖経営の特質を踏まえた対策を行うこと、仮設施設や共同利用施設の整備により水産加工・流通の早期復旧・集積化・団地化を支援すること、法人が漁協に加盟しないで漁業権を獲得できるようにすること、漁協の再編整備をすすめること、集落の高台移転など漁村の復興を支援すること、などが決められている。最後に、原子力発電所事故への対応として、水産物の放射性物質検査を継続するなど国の取り組みを強化することを述べている。

●イルカ等の2011年度新捕獲枠を決定 4%減少

水産庁は、今年度のイルカ等の新捕獲枠を決定して公表した。それによると、9種類合計17,939頭で、昨年の枠に比べ、724頭(約4%)減少している。その中で、もっとも多いのが三陸沖の突きん棒漁で獲られるイシイルカとリクゼンイルカで、全体の約3分の2を占めている。映画「ザ・コーブ」などによって有名になった和歌山県の追い込み漁では、約2000頭の枠が設定されている。2011年度は、2007年から5年間の予定で行われているイルカ等の漁獲枠の最終年度に当たり、2012年度からは、新しい漁獲枠に関する考え方が提示される予定であるが、水産庁は国民の意見を聞いて決定する姿勢を見せてはおらず、微調整に終わる可能性が高い。

●国際捕鯨委員会(IWC)年次総会開催

今年度の国際捕鯨委員会年次総会が、イギリス領ジャージー島で開催されている。今年度の総会では、イギリス政府がIWC内部の秘密主義や日本が行っているような票の買収などを禁

止する提案を行う予定である。一方、日本政府は、南氷洋での調査捕鯨を一時中断する代わりに、沿岸捕鯨を合法化する提案を行うものとみられる。

●IUCN がマグロ類の調査結果を発表 5種が絶滅の危機

国際自然保護連合（IUCN）は、定期的に絶滅危惧種の調査を行っているが、7月7日にマグロ類の調査結果を報告した。それによると、ミナミマグロ、大西洋クロマグロ、メバチマグロの3種が絶滅の危機にあり、キハダマグロ、ビンチョウマグロが絶滅危惧に近い状態にある。日本はミナミマグロの約95%を消費し、タイセイヨウクロマグロの約80%を消費している。またそれ以外のメバチ、キハダ、ビンチョウマグロでも、日本は主要な消費国となっている。乱獲が続くマグロ類が世界の海からいなくなる前に、消費者には、より環境への影響の少ないものを選ぶ努力が求められている。

●クジラ肉裁判 二審も「知る権利」認めず

国際自然保護団体グリーンピース・ジャパンの職員が日本の調査捕鯨で捕られたクジラ肉が横流しされている事実を、宅配便を差し押さえて検察に告発した事件で、青森地裁は昨年9月にクジラ肉の取り扱いに不明朗な事実があったことを認めながら、グリーンピース・ジャパンの職員の行為を窃盗として有罪にした。この判決を不服として、被告らは仙台高裁に控訴していたが、その判決が言い渡され、懲役1年執行猶予3年の一審判決を維持する決定をした。昨年12月には、調査捕鯨を管轄する水産庁の職員がクジラ肉を不正に譲り受けていたことを認めて謝罪した。このことが被告らの行為が「公共の利益」に寄与するものであったことを明らかにしたが、二審判決にどのように判断されるかが注目された。国連人権理事会や国際人権団体などが市民の「知る権利」を尊重するように意見を述べていた。それにもかかわらず、一審判決を支持したことについて、グリーンピース・ジャパンは「この判決は、政府や大企業の不正に対する市民の「表現の自由」「知る権利」を尊重せず、民主主義の原則に反する」と述べている。被告たちは、「裁判を通して、調査捕鯨における不正が明らかになり、それが改善されてきたことは実質的な成果だ。しかし、不正を厳しく罰するのではなく、不正を指摘する人を厳しく罰する判決を下したことで、この判決は民主主義の大前提を見誤ったものだ。裁判所が市民の政府や大企業を監視する権利を尊重しなければ、福島第一原発事故への政府や東京電力の不透明な対応や、九州電力のやらせメールのようなことは繰り返される」と批判して、最高裁の判断を求めて上告した。

【東北】

●大槌町ひょうたん島の松 津波で被害

テレビ人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルとされる岩手県大槌町の「蓬莱島」は、3. 11の大津波に襲われ、島にあった灯台は土台を残して流され、弁天様を奉ったお堂も鳥居が折れてしまった。島と岸边をつないでいた堤防も流されてしまった。島にはアカマツの木が3本残っていることが確認されたが、津波による被災で変色し、根もむき出しになっており、枯れるのを待つばかりになっている。この松をよみがえらそうと、京都市の官司の呼びかけで、造園業者がボランティアで島に出かけて栄養剤を点滴するなど対策を行った。順調なら一週間程度で新しい芽が出てくるだろうという。なんとか、ひょうたん島の松は生き残ることができるかもしれない。

【関東】

●2時間で53種類の生物を確認 三番瀬

三番瀬市民調査の会は、7月2日に三番瀬にある猫実川河口域で市民調査を行った。この海域は、千葉県や市川市が護岸の付け替え工事を行う際に、前浜の人工砂浜化を行う構えを見せているが、三番瀬の中でもっとも生物相が豊富な場所であり、市民は人工改変に反対して2003年から調査を続けている。この日は、干潮時のわずか2時間程度の間、53種類もの生物が見いだされ、その豊かな生物相が再確認された。珍しい生き物としてギマという魚が発見された。市民調査では初めて見いだされた種類である。ギマはカワハギに似た魚で、鰓やしっぽで体を支えて立つことができるユニークな姿勢が市民たちの関心を集めた。その他、クロシタナシウミウシ、アナジャコに寄生したフクロムシ、絶滅危惧種のエドハゼなども発見された。

【東海】

●アカウミガメ 津波に負けず 木戸浜海岸

成田空港の東に位置する千葉県横芝光町の木戸浜海岸で、今年もアカウミガメの産卵が確認された。木戸浜海岸は、東日本大震災で大津波が直撃し、砂浜がえぐれて急斜面になるなど海岸の状況が一変してしまったため、アカウミガメの上陸が今年も行われるか心配されていたが、アカウミガメは津波にも負けず産卵のために上陸した。

●シラスウナギ減少 ウナギが高騰

今年は河口を遡上するウナギの稚魚が非常に減少し、不漁だったことが影響して、ウナギの価格が高騰している。7月21日の土用の丑の日を前に、名古屋市内のうなぎ店でも軒並みウナギの価格が6~20%値上げされた。スーパーでも仕入れ値は昨年より30~50%の値上げで、生産量も国産で30%減、中国産では60%減と大幅な減少だ。水産総合研究センターの研究員の話では、「護岸開発や稚魚の乱獲が原因ではないか」と推定されている。水産庁によると、2010年の漁獲量は9.2トンで、2009年の24.7トンに比べ大幅な減少となっている。今年の予想はさらに下回ると見られている。ウナギも絶滅への道をたどっているのかもしれない。

【近畿】

●アカウミガメ上陸産卵の現状調査 白浜

和歌山県白浜町の日置海岸では、アカウミガメの上陸・産卵があったが、これまでほとんど調査がなかった。和歌山県すさみ町のエビとカニの水族館の平井厚志さんが、今年から調査を始めた。その結果、これまでに6月9日から8回、10個体のアカウミガメが産卵したことが確認された。そのうち、6月16日に産卵した場所が台風5号の高波で水没した。平井さんは、孵化が成功するかどうかを確認したいとしている。白浜町観光課も「データを共有して保護に役立てたい」と期待を寄せている。

●白良浜でアカウミガメの産卵確認

和歌山県白浜町の白良浜海水浴場で7月8日、アカウミガメが上陸して産卵しているのが確認された。白浜町では、周囲にロープを張るなどして保護している。見つけたのは散歩をしていた近くの住民。通報を受けて町の職員が砂浜を掘ってみたところ、深さ50cmのところ約100個の卵を発見した。白良浜では昨年に8年ぶりに産卵・孵化が確認され、今年も昨年に引き続いて産卵が行われたことになる。

【中四国】

●アカウミガメようやく産卵 観測史上最も遅く

徳島県内では有数のウミガメ上陸地として知られる美波町日和佐の大浜海岸に、7月10日にアカウミガメが上陸して産卵した。これは今年初めての産卵であるが、昨年に比べて40日も遅く、記録がある1967年以来もっとも遅い記録となった。毎年多くのウミガメが産卵に上陸している大浜海岸で、これほど上陸が遅くなった原因ははっきりしないが、今年の上陸が減少する恐れもあると心配されている。

●天然記念物カンムリウミスズメ 今年も上関の海に

中国電力が原子力発電所を建設しようとしている山口県上関町周辺の海で、今年も天然記念物のカンムリウミスズメがたくさん泳いでいるのが確認された。調査は7月3日の1日、山口県光市から上関町にかけて行われたが、上関町周辺の12ヶ所で合計32羽のカンムリウミスズメが見つかった。もっとも多い集団は5羽だった。調査したのは北九州市立自然史・歴史博物館の武石全慈学芸員。幼鳥の羽毛が生え替わる換羽期にあたるため、成長と幼鳥の区別は難しいとされるが、上関町周辺の海ではこれまでも幼鳥の姿が観察されており、原発建設予定地周辺で繁殖していることは確実と見られているが、中国電力は、繁殖しているとは認めていない。

【九州】

●佐賀県 諫干アセスへの意見書を提出 「全開門が原則」

佐賀県は、国営諫早干拓事業の潮受け堤防排水門の開門調査について、6月10日に環境アセスメントの中間報告が出されていることから、国から意見を求められていた。佐賀県と佐賀県有明漁協は、「全開門が原則」と明記した上で、段階的な開門によって有明海の環境改善を行うべきとの意見書をまとめて九州農政局に提出した。県の担当者は、「原因究明には全開門の期間をなるべく長期間とすべき」として、農水省の示した全開門は1年だけという開門計画に批判的な姿勢を示している。国が示した1077億円の対策費用が必要との見解に、開門調査に必要な工事と、現在でも必要な工事を明確に区別すべきと指摘、排水ポンプなど工事費削減が十分可能としている。長崎県などは開門に反対する姿勢を崩していない。

●5m超のジンベエザメ 新上五島

長崎県新上五島町有川郷の有川港沖の定置網に、体長5mを超え、体重は1トンと推定される大型のジンベエザメが掛かった。漁業者が近くの有川町の浮き桟橋まで慎重に移動させ、子供たちに見学させた。

●NPO がアカウミガメの講演会

宮崎県のNPO法人「宮崎野生動物研究会」は、アカウミガメの生態を子供たちにもっとよく知ってもらおうと、日南市の鶴戸小中学校の5-6年生を対象に講演会を開いた。講演では、ウミガメの保護活動の実態や、海亀の成育の障害となるゴミの問題を取り上げ、児童たちは熱心に聞いていた。

●コアジサシが集団営巣 一ツ瀬川河口

宮崎県宮崎市佐土原町の一ツ瀬川河口の氾濫原で、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧 II 類に指定されている鳥類のコアジサシが、今年も集団営巣を始めている。散歩に来た人が犬を放したり、むやみに近づいたりと配慮のない人が多いことから、地元の保護団体は「営巣中は繁殖地に入らないように」と呼びかけている。

●屋久島区長会は反対決議を見送る 馬毛島問題で

鹿児島県種子島沖の馬毛島に米軍空母艦載機訓練の移転が計画されている問題で、種子島の西之表町の区長会が移転反対を決議した。一方、屋久島町の26集落の区長会では、移転反対を表明している屋久島町から要請された反対決議を見送る方針を決めた。理由として、「防衛問題は国策なので区長会が意見を言う問題ではない」「情報が不足しており判断できない」などがあがった。また、反対署名活動への協力も「反対だけの署名を集めるのは浩平ではない」という意見も出た。西之表町でも経済界を中心に移転を歓迎する人もおり、多くの開発の地元と同じように、賛否による地元住民の亀裂が広がりそうな気配である。いったい誰が得をするのだろうか。

●馬毛島の違法工事差し止め訴訟 原告を募集

「馬毛島の自然を守る会・屋久島」の木下大然さんから以下のような呼びかけがなされています。

みなさま

周知の通り、薩南の「馬毛島」に軍事施設化の波が押し寄せつつあります。馬毛島は固有亜種マゲシカが群を成し、固有種を含む431種類の野生植物、多くの野鳥の中継・繁殖地、ウミガメ産卵地等、かつては豊かな自然に恵まれた島でした。標高70mほどしかない島に清流が流れ、ドジョウやメダカも生息していました。フィールドワークの雑誌「エコソフィア」18号の特集「森の国の草原」にも選ばれました。また周辺の海は種子島の漁民が代々漁場とし、かつては屋久島からも1本釣りの漁師が通っていました。

しかし近年、一企業が森林法に違反して森林を大規模に伐採し、環境影響評価法に違反して飛行場建設等の大規模な工事を強行してきました。それによって馬毛島の貴重な自然は失われ、周辺の海は汚れ、マゲシカなどの固有の生き物たちも姿を消しつつあります。この「明らかな違法工事の結果」を、軍事施設化のために国がお金を出して買い取ったり賃借料を支払ったりすることは、違法を助長し違法に加担するものです。

そこで違法工事差し止め訴訟を提起し、これを世論と国会にアピールすることで馬毛島の乱開発と軍事基地化に待ったをかけていきたいと思えます。ご賛同いただける方は是非原告団に参加していただきたく、お願いいたします。軍事基地化を国会が決める前に提訴する必要があるため、参加申し込み期限は8月5日午後5時とさせていただきます（〆切後も、提訴前でしたらご相談に応じます）。

原告訴訟代理人は馬毛島の裁判を含む環境裁判に長く関わってきた蔵元淳弁護士、菅野庄一弁護士他10名ほどが名を連ねています。原告募集要項は以下の通りです。

馬毛島の違法工事差止め訴訟原告緊急募集

<http://yakushima.org/magekai/m-suit11.htm>

馬毛島に関する資料としては以下の冊子をお奨めします。「馬毛島、宝の島」

http://www.nanpou.com/book/bok_296.html

私宛にご注文いただければ著者割引として2割引の1,260円（メール便送料込み）でお送りします。

また多くの方に原告になっていただくためにも、「軍事施設化の問題点」を要点を絞って分かりやすくコラム形式で記しました。

軍事施設化の問題点 <http://yakushima.org/magekai/m-problem.htm>

それでは、よろしく願いいたします。

馬毛島の自然を守る会・屋久島 <http://yakushima.org/magekai/> 木下 大然

〒891-4311 鹿児島県熊毛郡屋久島町安房2627-133 TEL 0997-46-3714 / FAX 0997-46-3738

Mobile 090-4342-0012 / 090-9580-7862 E-mail = waken@bronze.ocn.ne.jp

2. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【全国】

鎌仲ひとみ監督作品 映画「ミツバチの羽音と地球の回転」、映画「ぶんぶん通信」、瀬戸あや監督作品 映画「祝（ほうり）の島」の上映予定はまとめて日程と場所のみを書くことにしました。詳しくはそれぞれの公式ホームページをご覧ください。

●鎌仲ひとみ監督作品 映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映予定

7月19日（火） 長野市（長野）

7月20日（水） 横浜市（神奈川）

7月23日（土） 鳥栖市（佐賀）、神戸市（兵庫）、東金市（千葉）、倉敷市（岡山）

7月24日（日） 新庄市（山形）、立川市（東京）

7月27日（水） 高松市（香川）

7月30日（土） 七飯町（北海道）、大月市（山梨）、広島市（広島）、会津若松市（福島）

7月31日（日） 京丹波町（京都）、函館市（北海道）、名古屋市（愛知）

8月1日（月） 武蔵野市吉祥寺（東京）

8月6日(土) 川越市(埼玉)、石巻市(宮城)、小国町(山形)、美作町湯郷(岡山)、武蔵野市境(東京)

8月7日(日) 調布市(東京)、あきる野市(東京)、三田市(兵庫)、船橋市(千葉)、四条畷市(大阪)、大阪市(大阪)、広島市安佐南(広島)、安佐町可部(広島)、藤枝市(静岡)

8月9日(火) 嵐山町(埼玉)

8月13日(土) 岡崎市(愛知)

8月14日(日) 柏市(千葉)

●鎌仲ひとみ監督作品 映画「ぶんぶん通信」上映予定

7月21日(木) 八千代市(千葉)

7月25日(月) 千葉市(千葉)

7月29日(金) 新見市(岡山)

8月9日(火) 千葉市稲毛区(千葉)

●瀬織あや監督作品 映画「祝の島」上映予定

7月19日(日) 菊川市(静岡)、浜松市(静岡)

7月20日(水) 浜松市(静岡)

7月21日(木) 熱海市(静岡)

7月22日(金) 佐賀市(佐賀)、三島市(静岡)

7月23日(土) 小金井市(東京)、佐倉市(千葉)

7月24日(日) 袋井市(静岡)

7月25日(月) 浜松市(静岡)

7月26日(火) 浜松市(静岡)

7月30日(土)～8月12日(金) 川越市(埼玉)

7月30日(土)～8月5日(金) 福島市(福島)

8月4日(木) 目黒区(東京)

8月5日(金) 岡山市(岡山)

8月6日(土) 渋谷区(東京)、大阪市(大阪)、

8月7日(日) 武蔵野市(東京)、伊丹市(兵庫)

8月13日(土) 多摩市(東京)

【関東】

●シンポジウム『海洋生物が知りたい!』

・日時 2011年8月3日(水) 10:00-16:00

・会場 東京大学農学部・弥生講堂（文京区弥生 1-1-1）

・プログラム

- 10：00-10：05 開会の辞
- 10：05-10：35 「駿河湾の深海生物群集と生物濃縮」 東海大学海洋学部 堀江 琢
- 10：35-11：05 「イルカたちの生き残り戦術」 東海大学海洋学部 大泉 宏
- 11：10-11：50 特別講演1 「東日本大震災によって三陸沿岸域の海洋生物に何が
おこったか？」 岩手県水産技術センター 後藤友明
- 11：50-12：30 特別講演2 「海洋生物の魅力ー水族館における海洋生物飼育の変遷」
葛西臨海水族園 西 源二郎
- 13：45-14：15 「サメの不思議な能力」 東海大学海洋学部 田中 彰
- 14：15-14：55 特別講演3 「水族館のクラゲたち」 新江ノ島水族館 足立 文
- 15：05-15：35 「海の生きものたちはイヌ並みの鼻を持つ？-海洋生物の高感度匂いセ
ンサー」 東海大学海洋学部 庄司隆行
- 15：35-総合討論
- 16：00 閉会

・参集範囲と申し込み方法

参加無料（定員 150 名）参加希望者は下記までメールで申し込む。

それに対して受付番号を発行する。（メールによる返信）

〈申し込み先アドレス〉 acad-marine@ml.tokai-u.jp

〈締切り〉 2011 年 8 月 1 日 17 時到着分まで

※なお、以下の URL にも案内があります <http://www.scc.u-tokai.ac.jp/ocean/oe/2011.pdf>

●三番瀬「生き物見つけよう」

日時： 2008 年 7 月 21 日 10 時～17 時

場所： 三番瀬

資料代：一家族：200 円

プログラム

9:30～10:00 参加受付

- 10:00～10:20 開会・生きもの紙芝居
- 10:20～12:30 生き物を見つけるラリー（歩く・見る・顕微鏡で見る）
- 13:00～14:00 子どもエイサの舞い（生物多様性の人形劇）

- 10:00～15:50 写真展示
- 14:00～14:30 ラムサール・トーク
- 14:30～15:30 クリーン・アップ作戦
- 15:30～16:30 会場のあと片付け
- 16:30～ 閉会
- 17:00～ 自由に～夕日を楽しもう！

アクセス：京成線：船橋駅下車 船橋駅からバス：船橋三番瀬海浜公園行き

バスの時刻：9:00 9:20 9:40 (乗車 20 分ぐらい)

主催：生きものを見つけよう実行委員会

連絡先：TEL&FAX 047-318-4807 (岸本) Email：a1047w6@icnet.ne.jp

● 「7/31 トーク&ライブ 未来に輝け上関・祝島 原発なくても大丈夫！」

3月11日、東日本を大地震が襲い、かねてから懸念されていた「原発震災」が現実のものとなってしまいました。今こそ原発の危険性を再認識し、再生可能なエネルギー資源による電力供給の道を求めていくべきです。瀬戸内海の西の端、山口県上関町では、30年近く前から上関原発の建設が計画されています。建設予定地对岸の祝島では、千年以上も続く伝統文化を守りながら、その一方で自然エネルギー100%構想を打ち立て、原発に頼らない自立した生活を目指す取り組みを始めました。私たちは、この祝島の試みに希望の光を見出し、全力をあげて応援していきたいと思っています。この祝島の取り組みが上関町全体、そして日本全体へと広がることを願って、トーク&ライブを企画しました。また、終了後パレードもあります。ぜひご参加ください。

日時：2011年7月31日（日）13:00～15:40

会場：東京ウィメンズプラザホール（青山）

- 東京都渋谷区神宮前5-53-67（渋谷駅下車徒歩12分・表参道駅下車徒歩7分）
- <http://www.tokyo-womens-plaza.metro.tokyo.jp/contents/map.html>

参加費：前売1,000円・当日1,200円

プログラム

- トーク&ライブ 13:00～15:40
- トーク

氏本長一（祝島未来航海プロジェクト代表）「祝島の取り組みについて」

菅波完（高木仁三郎市民科学基金事務局）「原発の危険性・福島的事例をもとに」

大沢ゆたか（立川市議会議員）「電力の自由化・立川市の取り組み」

- 座談会「原発なくても大丈夫」
 - 鎌仲ひとみ／氏本長一／内田ボブ
- ライブ
 - 内田ボブ
 - 梶原徹也（THUNDERBEAT ex.ザ・ブルーハーツ）&ノブトウマサザネ（天空オーケストラ）

パレード 16:00～

- 渋谷や青山を通るコース（予定）です。詳細は web にて告知いたします。
 - homepage : <http://kaminoseki.blogspot.com/> （上関どうするネット）
 - <http://www.parc-jp.org/> （PARC）
 - twitter : http://twitter.com/#!/demo_yasai （野菜デモ）
- 思い思いのそれぞれのスタイルでご参加ください！

申込先：インターネット：<http://goo.gl/pQjIE>

- E-mail : dousuru_net@mail.goo.ne.jp Fax : 03-3357-3801
- お申し込みの際は、お名前・ご住所・連絡先をお知らせください

主催：上関原発どうするの？～瀬戸内の自然を守るために～（略称：上関どうするネット）

パレード共催：アジア太平洋資料センター(PARC)&PARC 自由学校野菜デモ部

- お問い合わせ：E-mail : dousuru_net@mail.goo.ne.jp （上関どうするネット）
- Tel : 03-3357-3800 （原子力資料情報室/担当：伴・永井）

【東海・中部】

●ウミホタル観察会 【伊豆海洋自然塾】

ビデオ「みんなで観察！！下田のウミホタル」により、ウミホタルの特徴・採集と観察・自然を見る視点などを説明し、その後、肉眼による発光観察、顕微鏡観察、質疑応答、海への放流を行います。

時期：2011年予定 8月6日、8月27日

実施時間：20時から21時

体験時間：1時間程度

体験料金：1人500円（障害保険料を含む）※未就学児童は無料

体験場所：まどが浜海遊公園（下田市柿崎）

体験人数：40名

その他中止の場合は当日18時00分までに参加者へご連絡します。

- ・資源保護のため、採集したウミホタルはすべて海へ放流します。
- ・ご参加いただく場合には、下記の申込連絡先にて、事前にお申し込みください。

問合わせ・申込方法：下田市自然体験推進協議会 海担当：伊豆海洋自然塾

下田市東本郷1丁目5番18号電話：0558-22-3913；FAX：0558-22-3910 メール：
kankou@city.shimoda.shizuoka.jp 株式会社タクト（0558-23-7577）まで

●伊勢・三河湾流域ネットワーク「アカテガニの放仔とウミホタル観察会」

毎年、8月上旬の新月の夜には、アカテガニが海辺に集まり、集団で海の中に放仔します。
アカテガニの放仔の観察会と昼間に仕掛けたウミホタルの罠の引き上げを行います。

7月31日〔日曜日〕19：00に愛知県南知多郡聖崎駐車場集合

希望者は事前に、大矢の携帯にお申し込みください。090-3852-9468

ただし、悪天候の場合は中止となります。

【近畿】

●淀川自然観察会 第168回 淀川・十三干潟の野鳥観察会

<開催日>7月24日（日）雨天実施

<開催場所>淀川右岸・十三干潟付近

<集合>9：00 阪急十三駅東改札口前<解散>11：00 頃十三干潟付近で

<持ち物>筆記用具、あれば双眼鏡、野鳥図鑑、小網、生きものを入れる容器など

<参加費>大人100円、中学生以下50円

<当日連絡先>中野 090-2350-2003

<その他>水溜りに入るのので、長靴など濡れてもよい足元で

<☆>野鳥観察の他、河原に出来た水溜りを覗いてみよう！

<問合せ>中野 072-444-4312(20：00～22：00)

●海のふしぎ観察会 シュノーケリング体験・海の中の生き物観察会

<開催日>8月6日（土）少雨決行

<開催場所>せんなん里海公園（泉南市）<集合>9：30 頃 南海「淡輪」駅改札口<解散>
>13：00 頃 現地

<定員>30名（応募多数の場合は抽選）

<持ち物>水着、水着の上から着るTシャツ等、タオル、弁当、水筒

<参加費>大人500円、小中学生300円


<申込み>メールでの申込みのみ受け付けています。umi@nature.or.jpに1. 全員のお名前とふりがな、2. 年齢または学年、3. 住所、4. 電話番号、5. メールアドレスを書いて、表題を「8/6 シュノーケリング参加希望」として送信してください。折り返し、抽選結果と詳細を連絡しますので、携帯メールの場合は nature.or.jp からのメールを受け取れるようにしてください。

<その他>泳げなくても参加できます。

<問合せ>申込先と同じアドレスにご連絡ください。

●磯と干潟の生きもの観察会

海の博物館近くの海辺に行き、カニ類やヒトデ類、ウミウシ類などを観察しよう。珍しい海の生きものに出会え、楽しく海辺の環境を学ぶ人気の観察会だ。見たこともない生き物に出会えるチャンス！ 持ち物：ぬれても良い靴、帽子、お弁当。※日によって、体験の内容が異なるので、詳細はHP参照 各日定員30名程度（要予約）

開催地 海の博物館 

所在地 〒517-0025 鳥羽市浦村町大吉 1731-68

開催期間 2011年5月22日～8月28日

料金 有料 小学生以上800円（入館料含）

アクセス(車) 伊勢西ICより約40分

アクセス(公共交通) 近鉄・JR鳥羽駅よりカモメバスにて約35分

駐車場 あり無料

問い合わせ先 海の博物館 TEL:0599-32-6006

※情報は予告なく変更になる場合がございます。観光イベントの中止や開催期間の変更などに関しては、問い合わせ先にご確認ください。

●アマモ場観察会 鳥羽市「海の博物館」

アマモがたくさん生えているところは、アマモ場と呼ばれ、魚の赤ちゃんなどが育つ場所で「海のゆりかご」と言われてきたとても大切な場所です。今回の観察会は、干潮の日に博物館の近くの干潟に出かけて、アマモやアマモ場の生きものたちに出会いながら、海辺の自然環境を楽しく学ぼうというものです。【持ち物】ぬれても良い靴、帽子、お弁当

開催場所：海の博物館（鳥羽市）
開催時間：11時～14時
募集人員：各日30名程度（要予約）
参加費：小学生以上800円（入館料含）
交通機関：上に同じ

【中四国】

●「海の生き物教室」 上関長島

上関原発予定地田ノ浦で「海の生き物教室」を開催します。現地祝島のかたがたや全国のみなさんの抗議行動、そして福島第一原発事故の影響で今年も田ノ浦湾は埋め立てられず、アカテガニが子供を産む夏が迎えられます。ナメクジウオやほかの生き物たちも元気に暮らしています。その感謝の意味も込めて、下記のとおり、海の生き物教室を開催します。たくさんの命のつぶやきに耳をすませてください。アカテガニが大潮の夜に海に向かって仔を産む様子や、夜活動するゴカイの観察、貝殻標本づくりなど、夏休みの子供たちにも楽しい体験ができる企画です。ガイドをしてくださるのは、いずれも専門の先生たちです。

1. 日程

7月30日（土） 10：30 上関町室津港駐車場集合

原発予定地 田ノ浦のログハウス「人々のつどいの家」に移動

*人々のつどいの家；祝島島民の会管理。全国からのカンパと

祝島のかたがたの労力で建てられたログハウス

海岸生物採集・標本作り体験 *指導；貝類多様性研究所 山下博由さん

夜のゴカイ・アカテガニ放仔観察 *指導；佐藤正典さん（鹿児島大学）

人々のつどいの家で宿泊

7月31日（日）自然に負荷を与えないシュノーケリング教室（予定）*プロのダイバーに指導いただく予定です 14：00 解散

2. 参加費 大人 15,000円程度（予定；メニューによって変更あり）（ガイド料、船チャーター料、食費・「人々のつどいの家」利用料等含む）子供 8,000円程度

3. 申し込み締め切り 7月15日（金）

4. 申し込み先

高島美登里 携帯 090-8995-8799 Fax 0820-62-0710 midori.t@crocus.ocn.ne.jp

森田修 携帯 Tel 090-4695-1290 Fax 0820-47-2120 yo.morita@extra.ocn.ne.jp

●「自然再生講習会」2011年 松江

日本生態学会が主催する第3回の「自然再生講習会」が、8月6日(土)に松江において開催されます。今回の講習会では、中海の自然再生事業実施計画作成の参考にしてもらうことを主な目的として、各地の湖沼や湿地で行なわれている自然再生事業に、科学的知見がどのように活かされているのかを、霞ヶ浦、八幡湿原、深泥池などの事例を紹介し、意見交換することとしています。参加には事前登録が必要です。詳しくは協議会のHPをご覧ください (<http://nakaumi-saisei.sakura.ne.jp/>)。

日時：2011年8月6日(土) 13:00-16:00

会場：松江テルサ「大会議室」(島根県松江市 JR 松江駅前 電話：0852-31-5550)

参加費：1,000円

【九州】

●雲仙・天草国立公園 海ほたるの観察会

目的：雲仙天草国立公園である上天草市の夜の海に光る「海ほたる」を観察し、実際に触れることにより、自然の不思議さ、偉大さ等を感じ自然環境について考えることを目的とする。

1)開催日時：7月23日(土)・8月6日(土)・8月22日(月)の3回 19:00~21:00

2)開催場所：松島町樋合海水浴場

3)集合場所：現地(樋合海水浴場の駐車場)パールサンビーチ

4)募集人員：100名

5)受付方法：電話予約 天草ビジターセンター TEL 0969-56-3665

開催日の3日前までに申し込むこと。但し定員になり次第締め切り。

6)参加料：一人500円(保険料含む)

7)持参品：海ほたるを入れる容器(ジャム等が入っている広口のビン)捕獲用の網をお持ちの方は、ご持参下さい。服装については、足は膝まで出せる服装が良い。海の中に入って海ほたるを捕獲するので、濡れても良い服装。

8)内容 19:00 受付開始 19:30 開会・海ほたるについて説明・諸注意

19:45 海ほたる観察会開始(海ほたるを観察したり、捕獲したりする)

21:00 終了・解散

※時間はあくまで目安です。予定通り進行しない場合がございます。※悪天候の場合、当日の午前中に中止の連絡をいたします。

主催：熊本県天草ビジターセンター(NPO 法人上天草アクティブセンター)、熊本大学沿岸環境科学教育研究センター合津マリンステーション、市民ボランティア「フィールド・スター」・天草パークボランティア協会

後 援：天草漁業協同組合上天草総合支所・上天草市

●「日韓国際緊急シンポジウム ー諫早開門問題、韓国の例に学ぶー」

沿環連（沿岸環境関連学会連絡協議会）後援のシンポジウムが開かれますので、ご案内いたします。

趣旨：昨年12月の福岡高裁判決確定により、有明海では諫早湾潮受け堤排水門の中長期開門が数年内に開始されようとしています。このような事業は国内初ですが、韓国では類似の環境で既に大規模複式干拓と調整池の開門がなされています。今回のシンポジウムでは、こうした韓国の大規模複式干拓と開門について、どのような環境変化が生じたのか？、事前・事後にどのような調査が行われているのか？、開門に至る過程でどのようにして合意形成されたのか等について研究者・市民・行政等広い範囲の方々が共に学び、その情報を諫早湾における開門調査の計画に生かしたいと思えます。

日時 2011年8月2日（火）13時～17時半（案）

場所 ももちパレス・小ホール（福岡市早良区百道二丁目3番15号）

主催：佐賀大学低平地沿岸海域研究センター

コンビーナー：速水祐一（佐賀大低平地沿岸海域研究センター）李應喆（佐賀大農学部）

【プログラム】

13:00-13:05 あいさつ

13:05-13:45 背景と趣旨説明 速水祐一（佐賀大学）

第1部 話題提供

13:45-14:25 韓国における干潟域干拓と保全について Kim Kyungwon（ソウル市立大）

14:25-15:05 始華湖におけるモニタリングと環境変化について Park YoungCheol（Ecocean）

15:05-15:10 休憩

15:10-15:50 締切・開門による生態系変化をどうモニタリングすべきか？ 佐藤慎一（東北大）

15:50-16:30 韓国における環境アセスメント制度と漁業法について 朴泰炫（江原大学）

第2部 パネルディスカッション

16:35-17:30 座長：速水祐一

パネラー：Kim Kyungwon・Park YoungCheol・佐藤慎一・朴泰炫・李應喆

○写真展&パネル展示を同時に実施 会場：ももちパレス・3F展示ホール

翌日（8/3）には研究者・技術者を中心にクローズドなワークショップを、丸1日かけて佐賀市内で開催する。日本の有明海・諫早湾問題の現状について、韓国研究者に伝え、開門について議論する。公開シンポジウムでは話題にしにくい技術的な問題に関する議論、韓国での経験にもとづいた反省点等を含む。

3. きらめく動物たちの命と海 【久保田信の白浜だより(その9)】

サンゴの変わり者、キクメイシモドキー 死んでも真っ黒なままのイシサンゴ

田辺湾には沖縄のような珊瑚礁の景観は広がらないが、黒潮の影響を受け、海水温も年間を通して暖かいので、60種くらいのイシサンゴ類が生息している。代表的な約30種は、瀬戸臨海実験所水族館で、周年、飼育展示している。

どの世界にも変わり者はいるもので、キクメイシモドキは生物学的にどの特徴をとってみても、とても変わったイシサンゴの仲間である。その理由の一つが、骨格が黒いことだ。他のイシサンゴ類は死んだら真っ白になり、砕けて白い砂浜をつくる。しかし、キクメイシモドキは、生きていても死んでも骨格が真っ黒のままである。黒色の正体は、鉄分やメラニン色素を多く含んでいるためだ。系統分類学的にはキクメイシ類に所属させられているが、その中でも1属1種として独特の分類群である。近縁種が何なのか、まだよく分かっていないのだ。

キクメイシモドキの大きな適応力

キクメイシモドキは、田辺湾のあちこちでごく普通に見られ、瀬戸臨海実験所が所有する田辺湾の中央に浮かぶ島にも生息している。場所によっては潮通しが悪く、泥まがかぶるような地点でも住める強者だ。冬季の低水温にも耐えられる能力もある。深い所には生息せず、過激な環境をわざわざ選んでいるとしか思えない暮らしぶりだ。

他のイシサンゴ類の様に褐虫藻を体内に共生させており、栄養は光合成産物に依存している。だが、獰猛で、ゴカイ類や線虫などのベントスを触手の刺胞で射止めて食べることも頻繁にやっている。このように適応力が大きいので、日本での分布域も広い。黒潮流域の沖縄地方をはじめ、太平洋岸では千葉県まで、対馬暖流の影響の強い日本海沿岸でも能登まで分布する。また、冬季の水温が低い瀬戸内海にも見られる。

打ち上がる群体

キクメイシモドキの群体は、白浜町の番所崎の磯浜を干潮時に歩いていると、いくつも見つけることができる。それらの群体は、あまり立ち上がらない形状で、むしろ平べったい。このような形をしているのは、流れが強くて速い湾の入り口なので、水流に抵抗できるような形状になる方が有利だからだ。キクメイシ類の仲間に分類されているが、典

型的な群体には程遠い姿をしている。北浜に打ちあがるキクメイシモドキの群体には、附着している岩石ごと打ち上がることもあるが、ほとんどは岩石からはがれたものばかりだ。サイズは手の平にのるようなごく小さく、大型群体には成長しない種類である。

ところが、2005年に入って、今までに見たこともない大きな塊のキクメイシモドキの群体が打ち上がっていて驚いた。条件がいいと他のイシサンゴ類のように大きく成長できることもあることが分かった。その群体は長径12cm、短径8cm、高さ5cmで重量が500g以上もあった(図)。それ以後ずっとこんな大きな群体は見つからない。

キクメイシモドキの生活史

以前に田辺湾のキクメイシモドキの生殖時期を調べた琉球大学の中野義勝氏によると、夏の水温の上がる時期に生殖巣が成熟し、7～8月を中心に有性生殖をしているとのことだ。沖縄では6～9月の生殖シーズン中に、1群体が平均13回の産卵を繰り返し、年間の産卵数がサンゴ界随一と言えとのことだ。これは、体の成長よりも生殖の方にエネルギーを投資していることになる。そのため、大形の群体にならないのであろう。なお、生殖開始の鍵は、水温が十分上昇することだけに依存しているとのことだ。

中野氏によると、イシサンゴ類の本場の沖縄では、キクメイシモドキは珊瑚礁の中でマイナーな存在で、湾内や陸水の影響のあるよどみなどが主な生息場所だという。このような場所は、光が深い所にまで届きにくいのと、深い所は堆積物が多いので、定着基盤が乏しく生息環境が整っていないので、深場でなくて浅瀬で見られる機会が多いことになるそうだ。

キクメイシモドキの産卵についてもご教示して頂けた。一般にイメージされているような1年1度きりの一斉産卵をしないとのことだ。産み出された卵は脂質に乏しく、一般のイシサンゴ類よりもはるかに小さい。プラヌラ幼生の寿命も長いという。実際、中野氏がこの幼生をシャーレに入れて飼育したところ、1カ月以上も生存したそうだ。さらに摂餌実験で、キクメイシモドキの群体への餌の量を不足させると、産卵数が減少するとのことだ。

遺伝子解析もやっておられ、興味深いことに、沖縄からタイまでの熱帯型のグループと本州の温帯型のグループに大きく分けることができるという。成体のいろいろな環境条件への耐性の強さと生殖周期の同調が緩やかなことが、高緯度地帯を含めた環境変動の大きな生息域での生存に成功した理由であると推測されている。結論として、一般のイシサンゴ類の生息に適さない場所にうまく潜り込んだ種といえる。



図. 2005年の冬に北浜に打ち上がったキクメイシモドキの大きな群体

4. 事務局便り：

- この「うみひるも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひるも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

5. 編集後記

連日の猛暑が身にこたえます。福島原発の事故の終息がみえないことが、いっそう暑さに拍車をかけています。海の生き物が今後どうなっていくのか、きわめて心配です。岩手県や宮城県の海中調査が行われるようになり、海の生態系は津波によって一時的な被害を受けたものの、その回復は順調のようです。それに比して、放射性物質の漏洩による被害がこれから心配されるところです。みなさまのご健康を心からお祈りし、海の生き物の健全な存続をこれからも課題としていきたいと思っております。

次号の「うみひろも」の配信は、編集者の都合により8月中旬を予定しています。(宏)

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000 円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp (向井) まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひろも』第83号

2011年7月18日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」

代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町23-1

グリーンヒル北白川23

TEL&FAX:075-703-7205 メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会